

伯父と伯母の突然の来訪。

それは、ふつうの入院なら特に気にならないもの。

でも、私はそのとき精神科に入院していました。それも閉鎖病棟。

私に会いに来るまでに、いくつもの扉やチェックを受けての来訪でした。明らかにとまどっている様子の伯母たち。「ああ、私の状況を知らなかったんだな」そう思いました。

そう。伯母たちには何も知らされていませんでした。

すごく困ったような、伯父と伯母の顔。そして、いたたまれない雰囲気。

その中で、私はすごくがんばって、笑顔を作っていたような記憶があります。

まるで、人ごとのように書いてますよね・・・

実は・・・このあとの記憶がありません。

それからの入院生活で覚えているのは、

夫から電話があったこと。その中で息子が風邪を引いたとかなんとか、そういう話を聞いたこと。

そして、どうしても家に帰りたくて、夜中に脱走を試みたこと。

失敗して暴れたこと。

暴れたので、さらに強い薬になったこと。

そのせいかどうか分からないのですが、実は、さらにその先の記憶も全くありません。

気がついたら、退院になっていました。

先生から退院の日取りをきいたとき

「え？こんなにはやく？」

と、すごく不思議な気がしました。そんな記憶があるのに、あとで入院日記を見たら、変に明るい日記なんですよね。よろこんでるんです。

わずかな記憶と、日記とが、すごく気持ち的にかき離れていて不思議に感じています。

何よりも怖いと思ったのは、

闘病期間の記憶がそこだけポッカリ抜けていること。

その当時の息子の顔も思い出せないのです。

この事実は、すでに薬を飲まなくなり、社会復帰した現在でも、大きな喪失感として、私の心にのしかかっています。

この喪失感と罪悪感（子供の面倒を見ることが出来なかった）は一生消えないでしょう。

また、入院中ずっと書きつづってきた日記ですが、その後退院後も書き続けました。ところが、それを数年たってからまとめようとしたときのこと。

日記を見ようとする、一行ほどで眠くなってしまいます。

それ以上読めないのです。

はじめのうちは、「仕事が忙しくて今眠いのね」と思っていたのですが・・・

どうやら、違うのです。しっかり眠っても、日記を読もうとすると、とたんに居眠りしてしまうのです。

それは、NHK「福祉ネットワーク」(<http://www.nhk.or.jp/fnet/>)で、「産後うつ」の特集をしたときも、**そうでした**。2004年10月と、2005年1月の2回、好評で放送されたようですが、そのビデオをどうしても見る事が出来ませんでした。

見ようと思うのですが、テレビの前で爆睡してしまうのです。

このことを知り合いの臨床心理士のかたに聞いてみたところ、

「心的外傷後ストレス障害（PTSD）」の一種だと言われました。（※用語についての詳細はこちら）

闘病時期の体験は、記憶を封印してしまいたいほどの、強烈な経験だったようです。

幸い、先日その「眠気」がようやく消えました。

しかしながら、私のように闘病中の記憶がスッパリ消えてしまっている、という話もちらほら耳にするようになりました。

それほどまでに、たいへんな体験を私をはじめ、闘病中の人は経験しているのです・・・

<続く>